

私の学生時代

看護福祉学部
看護学科

講師 神田 直樹



私は高校まで本州で過ごし、大学入学のため北海道にきました。高校時代は、ボート部に所属していました。所属していた高校のボート部は、何度も全国制覇をしている強豪で、全国制覇が常に目標でした。ボート部員は学校祭や体育祭には参加せず、出席を取った後は練習するということが当たり前であり、高校生らしい楽しい思い出は皆無でした。そのような状況であったため、大学では「楽しいこと、



大学1年 広島国体7位入賞時
(右から2番目が私)

やりたいことをする」と決めて大学に入学しました。

最初の1カ月は新しい友人といろいろ交流し、とても刺激的でしたが、夢中になれるものを見つけることはできませんでした。そんな時、大学にボート部があることを知り入部しました。ボート部は先輩後輩の仲が非常に良く、とても楽しい日々を過ごしていましたが、どちらかというと「デンタル(歯科学学生総合体育大会)」を目指し練習するのがメインで、看護学科の私は選手登録できない、できてもオープン参加、オープン参加で圧勝しても…という状況で残念な思いをしていました。そんな時、当時の歯学部の方を紹介していただき、クラブチームの一員としても活動することになりました。クラブチームは社会人が多いため、週5回、朝の5:00~7:20まで茨戸で水上練習をし、その後大学に通学していました。授業が終



大学3年 オックスフォード盾レガッタ(全国大会)3位時
(前列右端が私)

われば大学で陸上トレーニングをして、また次の日に朝練という生活でした。よって、当時の先生方には申し訳ありませんが、授業中は居眠りの多い学生だったと思います(申し訳ありません)。

しかし、練習を重ねたおかげで北海道代表として国体に3回出場させていただき、さまざまな全国規模の大会でも入賞することができました。このように、大学生活もボート中心の生活ではありましたが、高校

時代とは違い、辛い中にも楽しい日々も過ごすことができました。夢中になれるものを見つけられると生活が充実することを学んだ学生生活でした。

私の学生時代

今、本学の教壇に立たれている先生たちは、学生時代をどのように過ごしていたのでしょうか。今回は神田 直樹講師と浅野 雅子准教授のお二人に、当時の様子を語っていただきました。

私の学生時代

リハビリテーション科学部
作業療法学科

准教授 浅野 雅子



私は北海道大学医療技術短期大学部作業療法学科(現:保健医療学部)の出身です。3年間のうち、3年前期に長期実習がありましたので、実際の学生生活は約2年半と短いものでした。ですが中身は大変濃く、今振り返ってみても“あの頃は充実していたなあ”と思っています。その理由は、同期や教員との関係の濃さに



入学してすぐの頃の「実習いってらっしゃい」ジンパ。校舎前がジンパ会場。大学生って素敵♡ジンパ最高!

尽きると思います。

入学して暖かくなってくるころから、構内で“ジンパ(ジンギスカンパーティー)”が始まります。先輩方が実習へ出向く前後に行われるのが定例のものですが、この他、個人でもジンパを行っている先輩方がおり、近くを通ると「お前も入れ」と気軽に声をかけてくれたものでした。また、教員との距離もとても近く、一人暮らしの友達の家で飲み会をしていると助手の先生が紛れていることもしばしば。長期実習が終わった夏休み、打ち上げを兼ねたキャンプをしようと計画を立て、当日海に着くと、噂を聞きつけた教授がお父さんのように差し入れを持って参加しており、私たちに混ざって一緒に楽しんでおりました。勉強については、解剖学や運動学は覚えることが大量でしたので、身体中の筋の起始・停止部に赤丸シールを貼ったり、関節可動域や徒手筋力検査の練習



3年生。実習が終わってお疲れ様の夏休みキャンプ。先生も遊びに来る仲の良さ

では身体を貸し合いっこしながら、放課後、皆でワイワイと学んだものでした。

このようにいつも皆と過ごした反動で、就職した1年目は、仲間が口々に“寂しい…”と話し、結果、毎月持ち回りで同期が就職した各地方(札幌、旭川、室蘭、帯広など)で飲み会を開催しておりました。さすがに全員ではありませんが、今でも一部の同期とは学会の他、お盆や年末年始に顔を合わせる仲です。このような仲間は人生にとって大変ありがたい存在で、かけがえのない宝です。医療大の学生さんたちも、こんな仲間との関係を持ってもらえるといいなと思いながら、自分の経験を生かしつつ、学生指導を行っていきたいと思います。